

第4章 市民・事業者へのアンケート調査

1 アンケート調査の概要

2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、二酸化炭素排出量の削減等を行うための計画の策定や今後の市の施策に反映するため、市民や事業者における地球温暖化に関する現状の認識、普段の取組、今後の取組意向等を調査しました。

調査期間や回収結果については、以下のとおりです。

調査対象	市民	市内在住の18歳以上の市民1,000人(無作為抽出)
	事業者	市内の300事業所(無作為抽出)
調査期間	令和5年9月11日(月)～令和5年9月26日(火)	
調査方法	郵送配布及びWEB(インターネット活用)	
回収結果	市民	413回答(郵送268回答、WEB145回答) (回収率41.3%)
	事業者	110回答(郵送85回答、WEB25回答) (回収率36.7%)

2 アンケート調査結果(市民)

市民向けのアンケート結果の概要については以下のとおりです。アンケート結果の詳細は資料編に記載しています。

(1)地球温暖化問題への関心・認識

地球温暖化問題への関心	関心がある方が89% ⇒ 非常に高い関心度
普段の暮らしの中で感じる気候変動の影響	ほとんどの方が、以前と比べて気候変動の影響を身近に強く感じている。 (例) 夏の暑さや猛暑日・熱帯夜の増加 92% 台風や集中豪雨・豪雨被害の増加 80%
日本の2050年カーボンニュートラルの認知度	認知度は59%
鹿屋市の2050年カーボンニュートラルの認知度	認知度は16% ⇒ 認知度の向上が課題
2030年度の削減目標	最も多い回答(58%)は、 「国や県の削減目標である46%削減と同程度の目標を掲げるべき」と回答
省エネと再エネの推進度合	最も多い回答(45%)は、 「省エネルギーと再生可能エネルギーの双方をバランスよく推進するべき」と回答

(2) 普段の取組状況と今後の取組意向

■ 普段の取組状況

以下の取組については、ほぼ定着しています。

- 買い物にはマイバックを持参する
- テレビや照明について、 unnecessaryな場合はこまめに消す

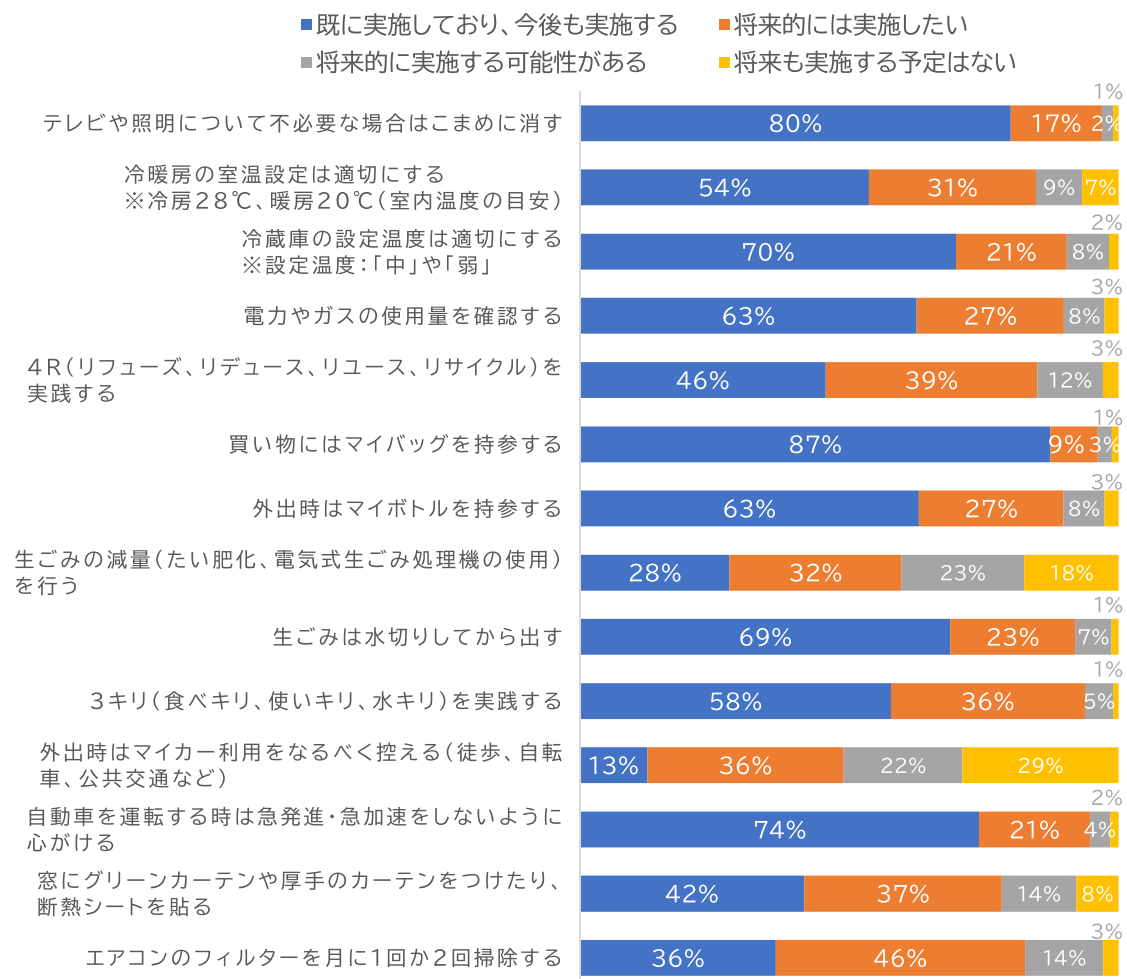
一方で、以下の取組については、あまり定着していない状況となっています。

- 生ごみの減量(たい肥化、電気式生ごみ処理機の使用)を行う
- 外出時はマイカー利用をなるべく控える(徒歩、自転車、公共交通など)

■ 今後の取組意向

今後の取組意向(「将来的には実施したい」と回答した割合)が高い取組は以下のとおりです。

- エアコンのフィルターを、月に1回か2回掃除する
- 4R(リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル)を実践する
- 窓にグリーンカーテンや厚手のカーテンをつけたり、断熱シートを貼る
- 3キリ(食べキリ、使いキリ、水キリ)を実践する
- 外出時はマイカー利用をなるべく控える(徒歩、自転車、公共交通など)



(3)現在の各種設備の導入状況と今後の導入意向

■現在の各種設備の導入状況

以下の設備については、既に、一定程度定着しています。

- リビング等へのLED照明
- 高効率給湯器(エコキュート、エコジョーズ等)

一方で、以下の設備については、ほとんど導入が進んでいない状況となっています。

- 家庭用燃料電池システム(エネファーム等)
- 電気自動車
- 燃料電池自動車

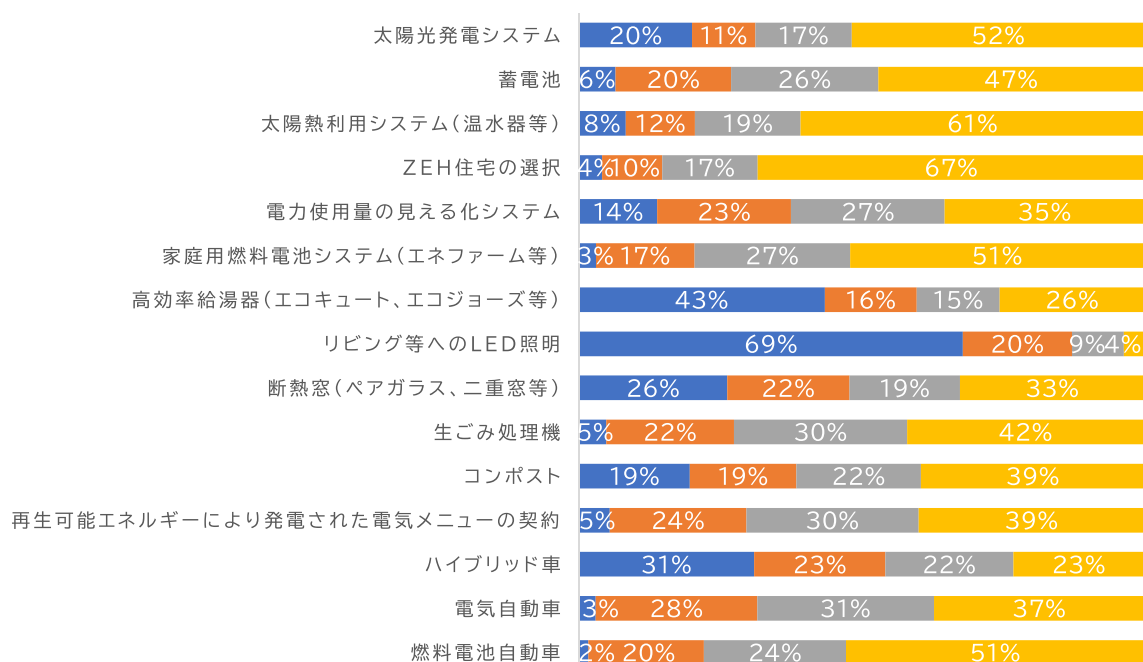
なお、若い世代(10代から30代まで)の方が「太陽光発電システム」、「蓄電池」、「ZEH住宅の選択」、「電力使用量の見える化システム」、「断熱窓(ペアガラス、二重窓等)」など全体的に導入が進んでいる傾向となっています。

■今後の導入意向

今後の取組意向(「将来的には実施したい」と回答した割合)が高い取組は以下のとおりです。なお、若い世代(10代から30代まで)の方が今後の導入意向が概ね高い傾向となっていました。

- 電気自動車
- 再生可能エネルギーにより発電された電気メニューの契約
- 電力使用量の見える化
- ハイブリッド車
- 断熱窓(ペアガラス、二重窓等)
- 生ごみ処理機

- 既に導入している
- 今は導入しておらず、将来的には導入したい
- 今は導入しておらず、将来的に導入する可能性がある
- 今は導入しておらず、将来的にも導入する予定はない



3 アンケート調査結果(事業者)

市民向けのアンケート結果の概要については以下のとおりです。アンケート結果の詳細は資料編に記載しています。

(1)地球温暖化対策への関心・認識

温暖化に関する社会変化による自社への影響	自社の事業に何らかの影響がある事業者 56%
温暖化対策に関する取組	最も多い回答(69%)は、「今後、具体的な取り組みを予定している。(今はまだ取り組んでない)」と回答
温暖化対策を実施する動機	最も多い回答(45%)は、「省エネルギーによる電気代・ガス代などのコスト削減」と回答
CO ₂ 排出量の把握・公表	把握している事業者は14%(86%が把握していない)
CO ₂ 排出量の削減目標の設定・公表	最も多い回答(70%)は、「目標は設定してらず、現時点では設定を予定していない」と回答
2030年度の削減目標	最も多い回答(44%)は、「国や県の目標である46%削減と同程度の目標を掲げるべき」と回答
省エネと再エネの推進度合	最も多い回答(53%)は、「省エネルギーと再生可能エネルギーの双方をバランスよく推進するべき」と回答

(2)普段の取組状況と今後の取組意向

■普段の取組状況

以下の取組については、既に、一定程度定着しています。

- 照明や動力装置について、不必要な場合はこまめに消している
- 自動車を運転する時は、急発進・急加速をしないように心がけている
- クールビズ・ウォームビズを実施している

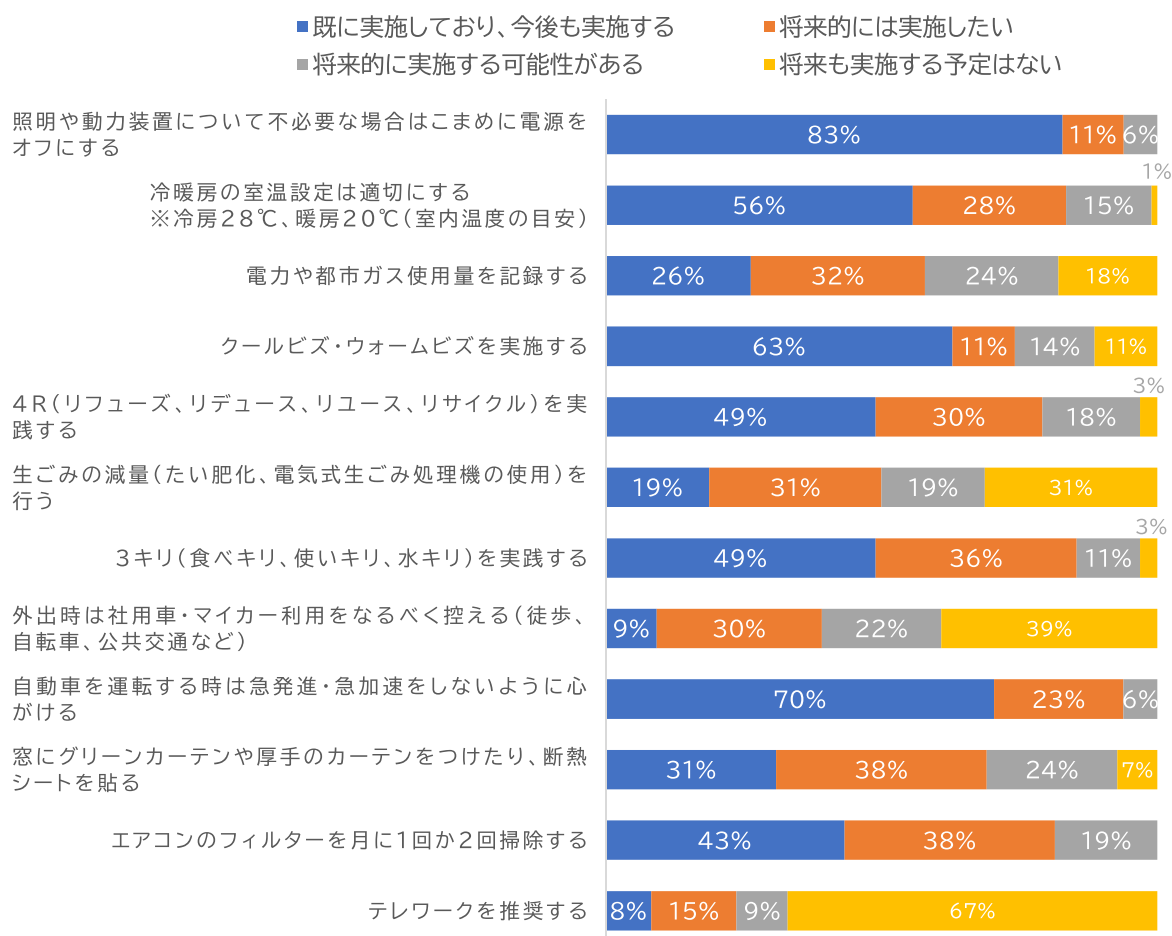
一方で、以下の取組はほとんど定着していない状況となっています。

- 生ごみの減量(たい肥化、電気式生ごみ処理機の使用)を行う
- 外出時は社用車・マイカー利用をなるべく控える(徒歩、自転車、公共交通など)
- テレワークを推奨する

■今後の取組意向

今後の取組意向(「将来的には実施したい」と回答した割合)が高い取組は以下のとおりです。

- 窓にグリーンカーテンや厚手のカーテンをつけたり、断熱シートを貼る
- エアコンのフィルターを、月に1回か2回掃除する
- 3キリ(食ベキリ、使いキリ、水キリ)を実践する
- 電力やガス使用量を記録する



(3)現在の各種設備の導入状況と今後の導入意向

■現在の各種設備の導入状況

以下の設備については、既に、一定程度定着しています。

- 主要箇所へのLED照明

一方で、以下の設備については、ほとんど導入が進んでいない状況となっています。

- 建築物のZEB化
- 電気自動車
- 燃料電池自動車

■今後の導入意向

今後の取組意向(「将来的には実施したい」と回答した割合)が高い取組は以下のとおりです。

- 断熱窓(ペアガラス、二重窓等)
- 主要箇所へのLED照明
- ハイブリッド車
- 燃料電池自動車

